

提出日： 2024 年 5 月 31 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
商学部	准教授	文純實

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。
	1. 2023年4月 1日 ～ 2024年3月31日 2. 2023年9月 1日 ～ 2024年8月31日 3. 2023年4月 1日 ～ 2023年9月20日 4. 2023年9月21日 ～ 2024年3月31日 1
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。
	・韓国延世大学校の国学研究院にて客員研究員として在職しながら、平日特に学外での用事がなければ研究室に出勤して、史料や文献のネット検索および講読や論文執筆など研究活動を行った。 ・韓国古文書研究会の分科研究会である「古文献研究会」に研究員として参加し、毎週開催されるセミナーに参加し、17～19 世紀の朝鮮時代の文人の手紙(草書)を講読した。このセミナーは毎回オンラインでの開催で、現在も継続して参加している。 ・ソウル在中、14の研究発表や報告会、シンポジウム、フォーラムなどを視聴した。 ・長期滞在できたことで、ソウル市内および地方の史跡、遺跡など踏査。ソウルでは主にソウル都城周辺をめぐり、約11の地方都市または史跡地をめぐった。 ・ソウルをはじめ訪問先の博物館、資料館の多くを見学した。 ・台湾の澎湖島および台南で、18世紀朝鮮の漂流民関連の地域を踏査した。 ・ソウル滞在中に、古文献研究会セミナーおよび政策文化総合研究所「朝鮮史研究と日本史研究の接点」チームにて公開研究発表を行った。
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。
	・朝鮮時代の漂流研究に関連する史料および文献収集し、年号研究に関連した史料および文献、および碑文史料を収集でき、こちらは論文としてまとめた。 ・ソウル市内や地方の士族故宅、集住地、書院など踏査することで、18～19 世紀の知識人、士族など当時の交流関係が空間的に検証できた。
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。
	・年号に関連してまとめた研究は、5 月に所属する研究会で来年度発行予定の叢書に寄稿を予定している。 ・漂流に関連する研究は、今回収集した文献・史料を整理して、研究論文をして本年度中にまとめ、本年度末までに研究誌に投稿する予定である。 ・漂流に関連しては、今後朝鮮清朝だけの問題ではなく、広く琉球、対馬との関連も見出せ、研究対象を広げて進める予定である。